

第 21 章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 300m、さかい川の谷頭部から約 1,500m 下った右岸に位置し、標高 12～16m、現谷底との比高差は 1.5m を測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1987 年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後 1993 年に新駅へ延びる道路をはじめ、2019 年 4 月現在、55 地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

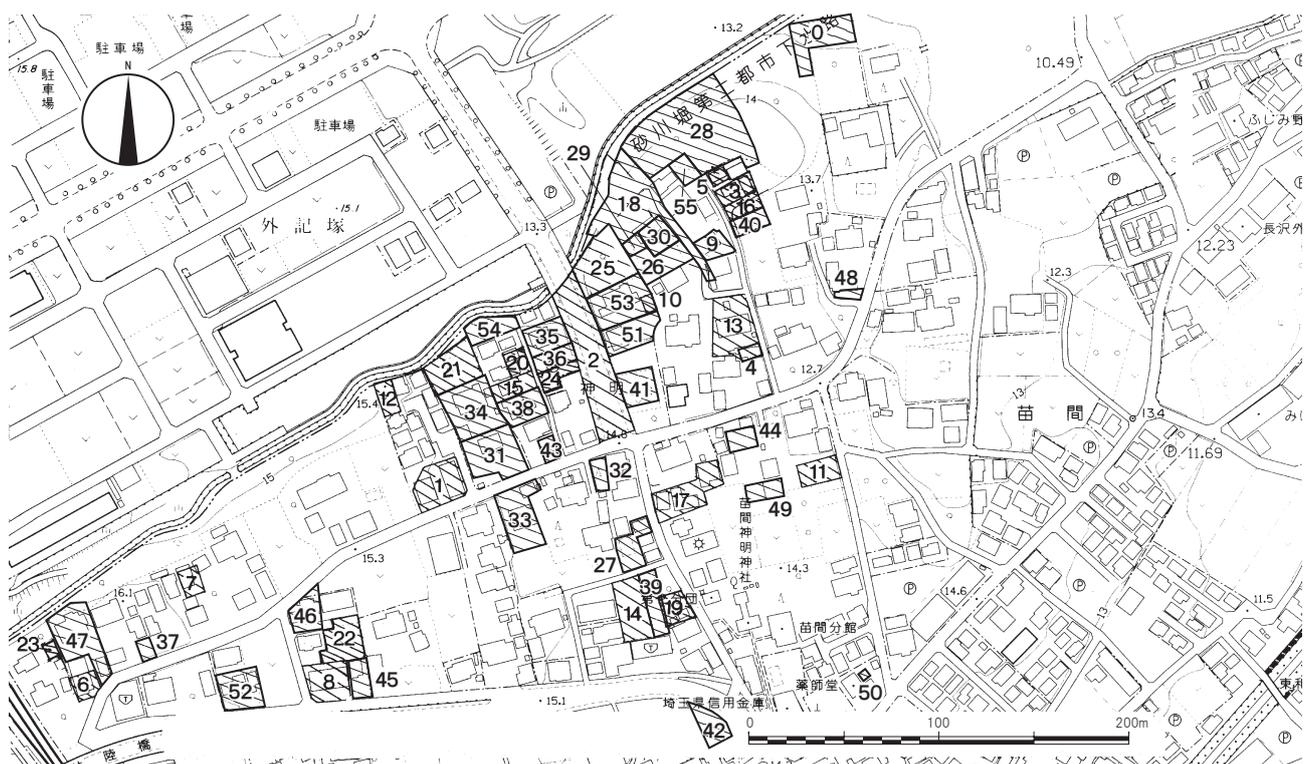
II 神明後遺跡第 55 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 4 月 10 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2017 年 5 月 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約 40～70 cm で地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代住居跡 2 軒を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、



第 110 図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

本調査を実施した。

本調査は 2017 年 5 月 9～12 日まで、調査区南側の縄文時代住居跡が確認された部分を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

今回の調査では縄文時代中期の住居跡 2 軒を検出した。J28 号住居跡の埋甕については、規模等から考えて屋外埋甕の可能性も考えられる。

① J24 号住居跡

【位置】調査区西側に 1/4 程度を検出。

【形状・規模】残りが非常に悪いため、形状・規模は不明。

【構造】詳細は不明だが、今回の調査で周溝を確認した。また、ピット 4 は柱穴である可能性がある。

【遺物出土状況】狭い範囲での検出だが、比較的遺物量は多い。ほとんどが覆土中よりの検出である。

【時期】出土遺物の時期幅が広く、断定はできない。

② J28 号住居跡

【位置】調査区中央部に位置する。

【形状・規模】掘り込みが確認できなかったため、形状・規模は不明。

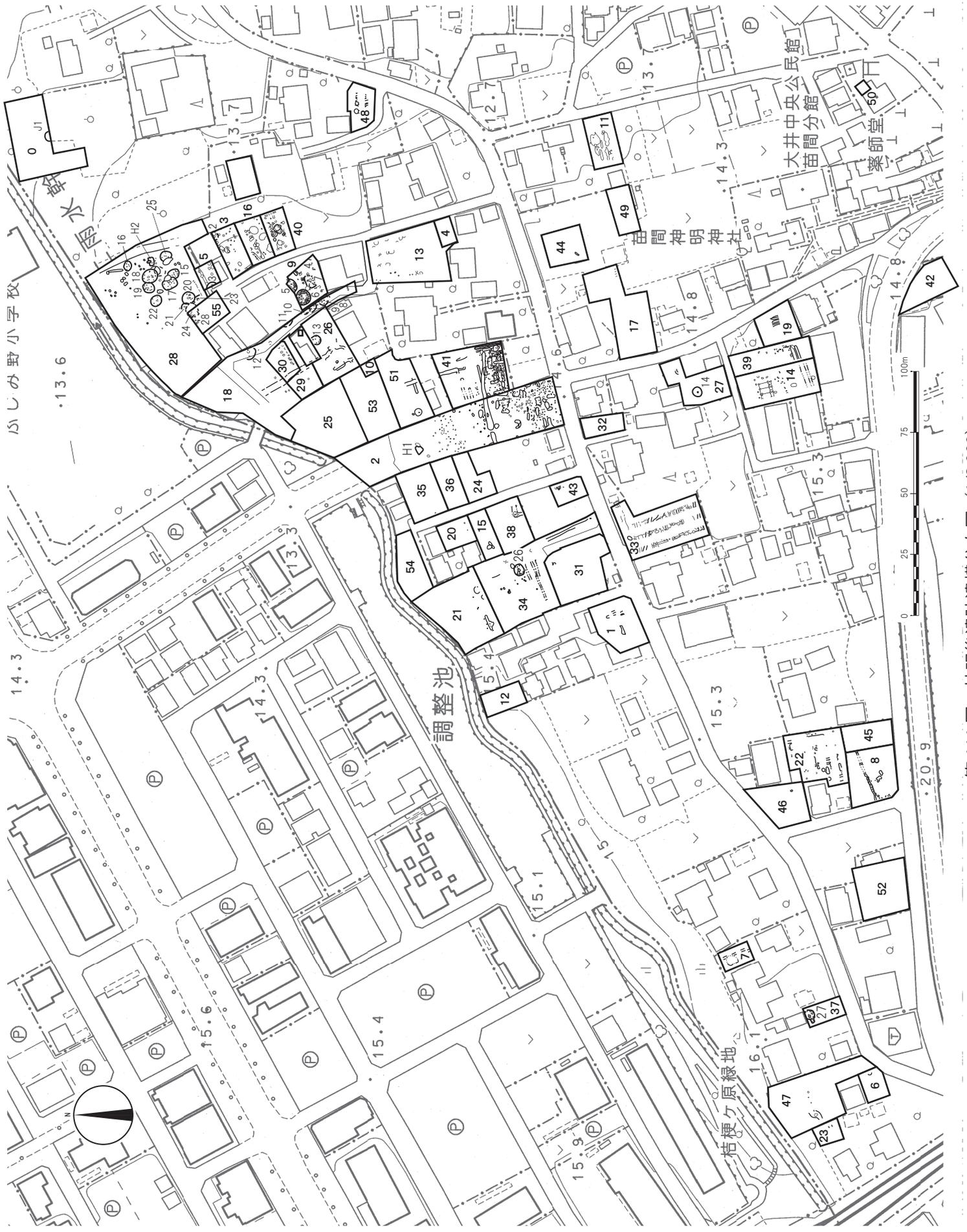
【炉】平面形態はほぼ円形を呈し、確認面径 54 cm、底面は中央部分が盛り上がる。深さ約 20 cm。原位置を保つ炉体土器の中に、別の土器片が折り重なるように出土した。

【埋甕】深鉢を逆位に設置し、下半部を打ち欠く。確認面径 72 × 54 cm、底径 55 × 44 cm、深さ 20 cm を測る。

第 62 表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
0	苗間 322 の裏の山林	1986.4.9～4.28	200	大井町史編	縄文住居跡 1 (J1 号)、集石、堀跡	町史資 I
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615	共同住宅	溝、平安時代須恵器片、陶器片	町内 III
2	苗間 295-2、299-3	1993.5.12～20	1,688	道路築造	落とし穴 1、平安住居跡 1 (H1 号)、縄文土坑 1、平安住居跡 1 (H1 号)、中・近世掘建柱建物跡、地下式壙 1、井戸、堀	町内 III
3	苗間 309-12	(1995.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡 1 (2 号)、伏甕 2、埋甕 1、土坑 2、ピット 34 他	町内 VI
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町内 VI
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文住居跡 1 (3 号)、土坑 5、溝、縄文中期後半～後期初頭土器	町内 VI
6	苗間 255、227-2	(1997.9.29～30)	150	個人住宅	土坑 1、土器片・石器片	町内 VII
7	苗間 260	(1998.6.1～2)	1,460	個人住宅	近世地下室 1	町内 VIII
8	苗間 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	縄文土器片	町内 VIII
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11) 1998.9.14～10.15	219	共同住宅	縄文住居跡 4、集石土坑 1、落とし穴 1、縄文土坑 2、近世土坑 1、井戸 2、地下室 1、ピット 33	町内 VIII
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内 IX
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑 17、ピット 7	町内 IX
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構遺物なし	町内 IX
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑 12、ピット	町内 X
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑 1、近世掘建柱建物跡 1、溝 2、井戸 1、柵列、ピット 38	町内 X
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12～13	163	個人住宅	集石土坑 1 (阿玉台期)	町内 XI
16	苗間 309-14	(2001.7.23～24) 2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋甕 4、土坑 13、溝 2、地下式壙 1、地下室 1、竪穴状遺構 1、ピット 38	町内 XI
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内 XI
18	苗間 304-1、303-6	(2002.5.15～25) 2002.5.27～6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡 5 (8～12 号)、土坑、古代・中世堀跡	町内 XII
19	苗間 264-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	根切溝、溝 4	町内 XII
20	苗間 293-11	(2003.1.14～15)	143	個人住宅	中・近世溝 2、ピット 2	町内 XII
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674	土地造成	ピット 7、井戸 1、近世地下室 2、土坑 1	町内 XII
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430	分譲住宅	井戸 1、土坑 10、ピット 38、江戸後期陶磁器	町内 XII
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室 1、銭貨	町内 XII

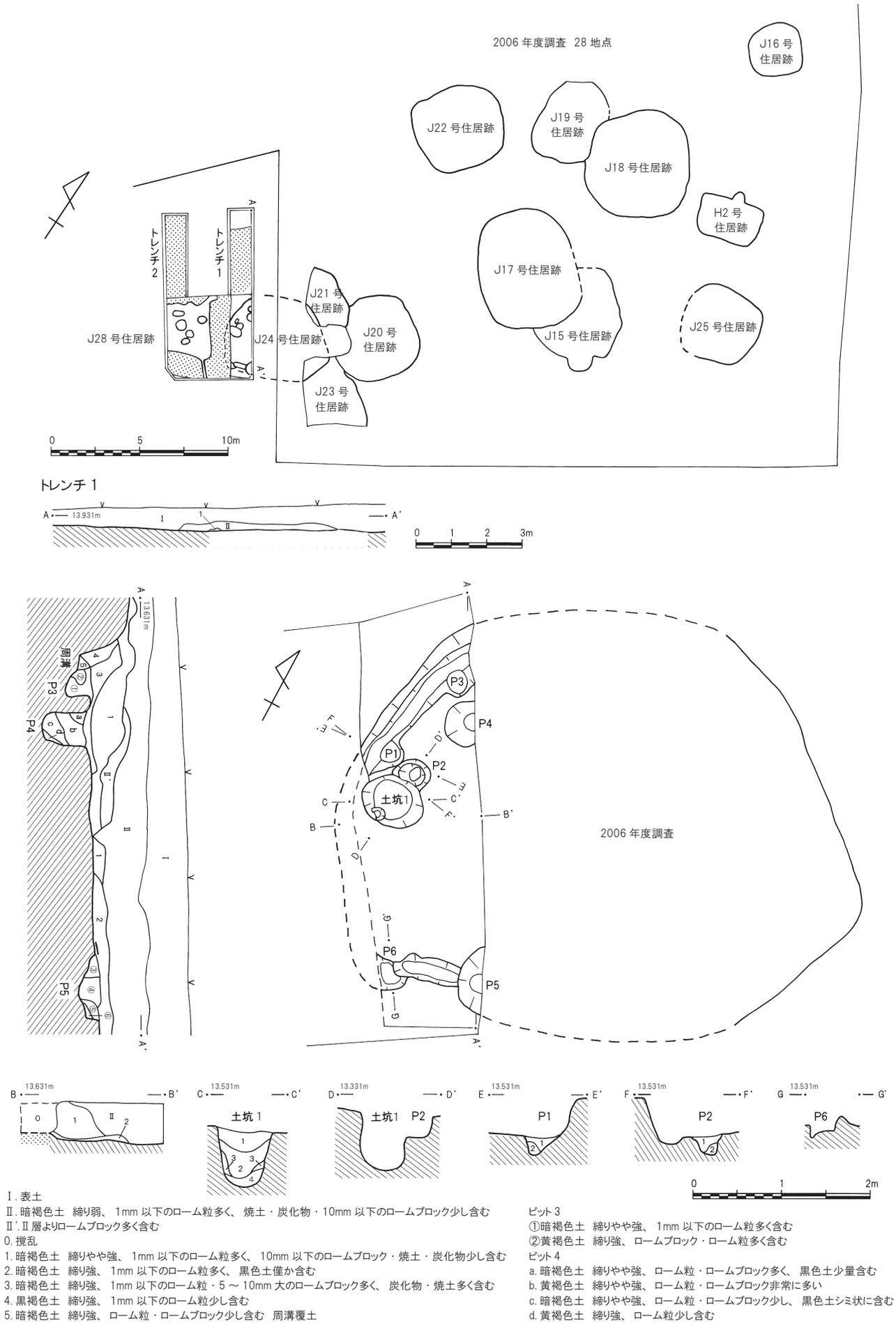
地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
24	苗間神明後 293-4・10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148	個人住宅	遺構遺物なし	町内XII
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内XII
26	苗間神明後 301、 303-3 ~ 5・7、304-1	(2005.6.1 ~ 8) 2005.6.15 ~ 30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡 1 (13号)、中世地下式塙、近世土坑 5、溝	大調 18
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20 ~ 25) 2005.7.27 ~ 29	385	共同住宅	縄文中期住居跡 1 (14号)	大調 18
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11 (15 ~ 25号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、 炉穴 3、ピット、溝 4、平安住居跡 1 (H 2号)、古代・中世堀跡 1	市内 3・24
29	苗間神明後 303- 21・24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	135.9	個人住宅	ピット 1、古代・中世堀跡 1	市内 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 19	101.13	個人住宅	ピット 12	市内 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	個人住宅	土坑 2	市内 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代攪乱	市内 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ピット 16	市内 6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	357	分譲住宅		市内 6
34	苗間字神明後 283-1、 284-1 の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1 (26号)、落とし穴 1、集石 3、ピット	市内 5
35	苗間字神明後 293-6・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	ピット 1	市内 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15 ~ 30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	市内 8
38	苗間字神明後 293-1、 292-13	(2009.7.6 ~ 7) 2009.7.8 ~ 16	265	個人住宅	中近世溝 1	市内 8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5 ~ 12) 2009.8.24 ~ 9.1	378	共同住宅	中～近世溝 2、ピット 28、落とし穴 1	市内 7
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 16) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式坑 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	市内 8
41	苗間字神明後 298-1、 299-1 の一部	(2010.5.25 ~ 6.7) 2010.6.15 ~ 7.21	486.36	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 7、 木炭窯 2、ピット 214	市内 9
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	宅地造成	遺構遺物なし (隣接地)	市内 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ピット 7、本調査	市内 10
44	苗間神明後 367-1、 368-1 の一部	(2011.7.8) 2011.7.11 ~ 13	1,535.8	個人住宅	落とし穴 1、土器・陶器片	市内 14
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9 ~ 10)	233	個人住宅	縄文土坑 1、土器片	市内 15
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24) 2012.4.25 ~ 5.10	340	個人住宅	縄文時代集石 3、ピット 4、縄文土器片	市内 15
48	苗間神明後 315-1 の 一部	(2012.5.7) 2012.5.8 ~ 14	171	個人住宅	井戸 2、溝 3、土坑 8、ピット、板碑、カワラケ、近世陶磁器、石 臼片	市内 15
49	苗間神明後 367- 1,368-6	(2013.1.30)	27.5	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531	薬師堂	遺構遺物なし	市内 18
51	神明後 295-1、297- 1・2 の一部、298-1、 299-1	(2014.11.5 ~ 13) 2014.11.20 ~ 25	487.33	集合住宅	縄文時代土坑 2、中近世溝 2、縄文土器	市内 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	個人住宅	遺構なし、土器片	市内 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.1.28)	495	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
54	苗間字神明後 293- 7・9	(2015.12.3)	342	共同住宅	遺構遺物なし	市内 22
55	苗間字神明後 310-1 の一部	(2017.5.8) 2017.5.9 ~ 12	180	個人住宅	縄文住居跡 2 (24・28号)、縄文土器、石器	市内 24



第111図 神明後遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第 63 表 神明後遺跡縄文時代住居跡一覧表

住居 番号	地点	調査率	平面形 () は推定	規模	炉			埋塞	拡張	周溝	備考	時期	所収報告書
					地床	埋設	石囲						
1	0	10%	(円形)	不明	未掘					○	中世土塁の下	加曾利 E II	町史資 I
2	3	65%	(円形)	不明×435×16	○	○		○	有		土坑と複合	加曾利 E IV、埋塞も E IV	町内VI
3	5	45%	(円形)	410×不明×30			○		有		北半未掘	加曾利 E II 新	町内VI
4	9	15%	不明	不明			○		不明	○	攪乱著しい	加曾利 E II 中	町内VIII
5	9	45%	(円形)	565×?×33	○				有		東北部未掘	加曾利 E II 新	町内VIII
6	9	95%	円形	596×542×45	○	②		②	有・ 建替	○	拡張と建替各 2	加曾利 E I 新古相	町内VIII
7	9	70%	円形	不明×498×18	○		○	○	不明		東南部床まで削平	加曾利 E I 新中相	町内VIII
8	18	70%	(円形)	580×?			○	○	不明		床面攪乱	加曾利 E I	大調 16
9	18	50%	(不整形円形)	(490×270)	未掘				有	○	10 号に切られる	(加曾利 E I 新新相)	大調 16
10	18	50%	不明	(300×250)×50	未掘					○	9 号を切る	曾利 III 式	大調 16
11	18	40%	(不整形円形)	(490×?)×55	未掘					○	貼床	加曾利 E II	大調 16
12	18	70%	(不整形円形)	(570)×550×80	○					○		加曾利 E III	大調 16
13	26	完掘	隅丸方形	343×370×13		○	○	○				加曾利 E I	大調 18
14	27	完掘	円形	404×403×20	○						2 本柱のみ	阿玉台 II	大調 18
15	28	完掘	円形	573×499×35			②				入口に張り出し有、17 住を埋める	加曾利 E III	市内 3
16	28	完掘	隅丸方形	338×337×25	②			○				加曾利 E II 新	市内 3
17	28	完掘	隅丸長方形	684×525×70	②			○	有	○	拡張 3、15 住に切られる	加曾利 E I 新	市内 3
18	28	完掘	隅丸方形	608×600×90	○		△	○		○	石囲いの可能性有、19 住に切られる	加曾利 E I 新	市内 3
19	28	完掘	隅丸長方形	476×448×60	②		△				石囲いの可能性有、18 住を切る	加曾利 E II～III	市内 3
20	28	完掘	隅丸方形	473×483×28			○				妻り口近くに配石、伏塞	加曾利 E II	市内 3
21	28	40%	(隅丸)	?×?×10	○					○	20・24 住より古	加曾利 E I 新	市内 3
22	28	完掘	隅丸五角形	491×513×113	○					○		加曾利 E I 新	市内 3
23	28	25%	不明	?×?×21	②		△				石囲いの可能性有。20 住より古、24 住より新	加曾利 E II	市内 3
24	28	10%	不明	?×?×55	未掘					○	20・23 住より古、21 住より新	加曾利 E	市内 3、24
25	28	完掘	不明	(500×400)×5	○			○				加曾利 E II 新	市内 3
26	34	完掘	隅丸長方形	585×486×31	○						土坑 1 より新、落とし穴より旧	加曾利 E III	市内 5
27	37	ほぼ完掘	柄鏡方	(550×390)×27.6				○	○			称名寺 I 新	市内 8
28	55			不明		○						加曾利 E II	市内 24



第 112 図 神明後遺跡第 55 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、J24 号住居跡 (1/60)

【時期】 炉体土器及び埋甕から加曾利 E II 式期。

③土坑及びピット

土坑 1 は J24 号住居跡ピット 2 と切り合う。土層の観察より住居跡より新しい。平面形態は楕円形を呈し、確認面径 73 × 57 cm、底径 46 × 41 cm、深さ 71.5 cm を測る。土坑 2 は J28 号住居跡埋甕の北側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、確認面径 62 × 34 cm、底径 22 × 13 cm、深さ 12.7 cm を測る。

ピットの詳細については第 64 表に掲載した。J24 号住居跡ピット 4 及び J28 号住居跡ピット 1 については、住居に伴う柱穴である可能性がある。

④出土遺物

出土遺物の詳細については第 65 表に掲載した。

第 64 表 神明後遺跡第 55 地点 J24・28 号住居跡ピット一覧表 (単位 cm)

住居 No.	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
J 24 号 住居跡	1	不明	47×38	24×20	22.8
	2	不明	37×(27)	30×(21)	24.5
	3	不明	(27)×-	25×22	28.9
	4	不明	50×(34)	21×(11)	59.5
	5	不明	78×(28)	23×(13)	22.2
	6	不明	39×(31)	26×(26)	6.9

住居 No.	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
J 28 号 住居跡	1	楕円形	48×40	25×16	33.1
	2	楕円形	47×36	16×11	15.3

ピット 5

- ③暗褐色土 粘り強、1mm 以下のローム粒多く含む
- ④暗褐色土 粘りやや強、ローム粒・ロームブロック多く含む
- ⑤暗褐色土 粘り強、ローム粒・ロームブロック少し含む
- ⑥暗褐色土 粘り強、ローム粒多く、ロームブロック少し含む

土坑 1

- 1.暗褐色土 粘性有、粘りやや弱、1mm 以下のローム粒、焼土・炭化物多く含む
- 2.暗褐色土 粘性有、粘りやや弱、1mm 以下のローム粒多く、焼土・炭化物少し含む

- 3.暗褐色土 粘性有、粘りやや強、1mm 以下のローム粒、焼土・炭化物少し含む
- 4.暗褐色土 粘性有、粘り強、1mm 以下のローム粒僅か含む

ピット 1

- 1.暗褐色土 粘りやや強、1mm 以下のローム粒・炭化物・焼土多く含む

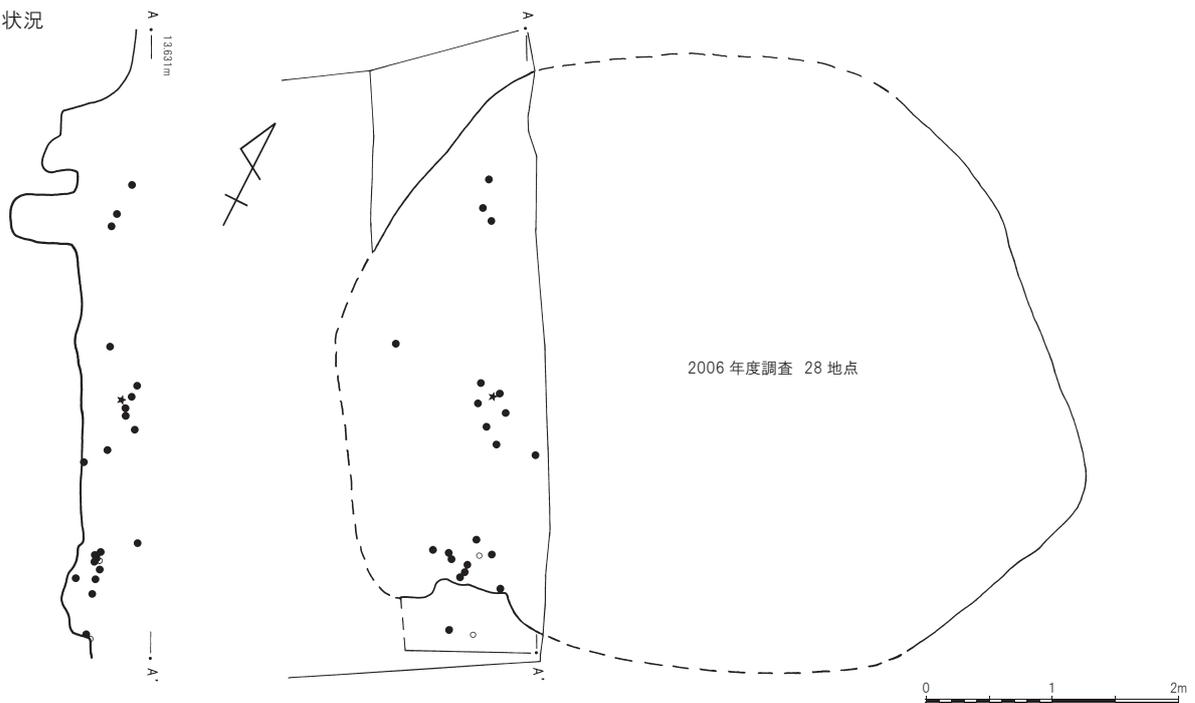
- 2.黄褐色土 粘り強、1mm 以下のローム粒多く、焼土・炭化物少し含む 周溝覆土

ピット 2

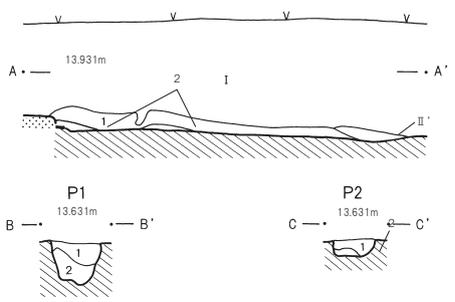
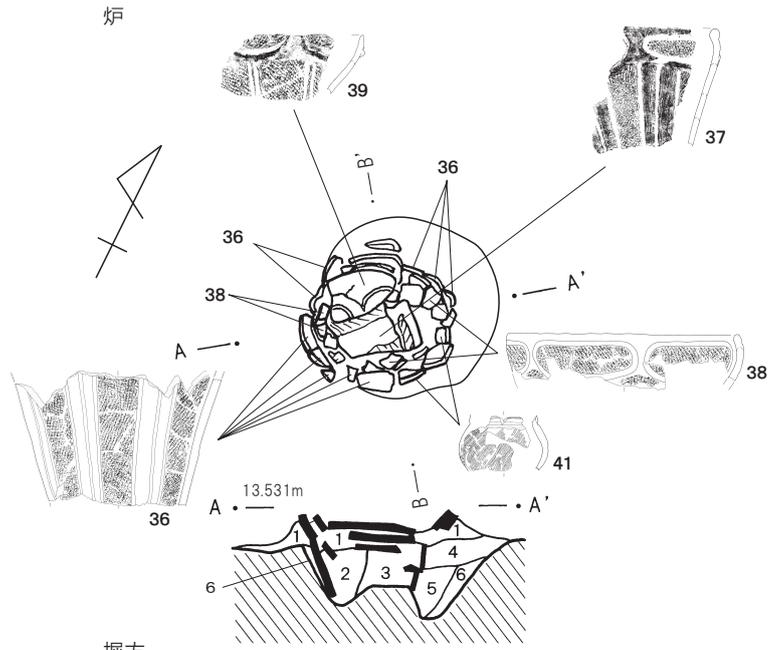
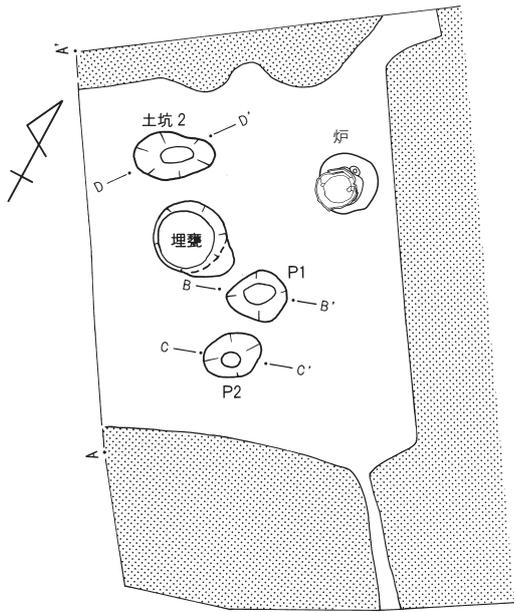
- 1.暗褐色土 粘りやや強、ローム粒・ロームブロック・炭化物少し含む

- 2.暗褐色土 粘りやや強、ローム粒・ロームブロック多く含む

遺物出土状況



第 113 図 神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡遺物出土状況 (1/60)



J28 住居土

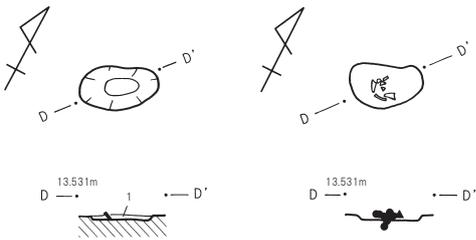
I. 表土

II. II 層よりロームブロック多く含む

- 1. 暗褐色土 締りやや弱、1mm 以下のローム粒少し含む
- 2. 黄褐色土 締り強、ローム粒多く含む

土坑 2

遺物出土状況

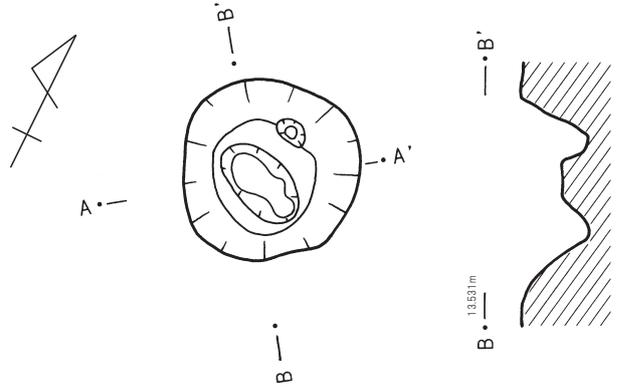


ピット 1・2・土坑 2

- 1. 暗褐色土 締りやや弱、1mm 以下のローム粒少し、20 ~ 30mm 大の小礫多く含む
- 2. 黄褐色土 締りやや強、1mm 以下のローム粒僅か、焼土粒少し含む



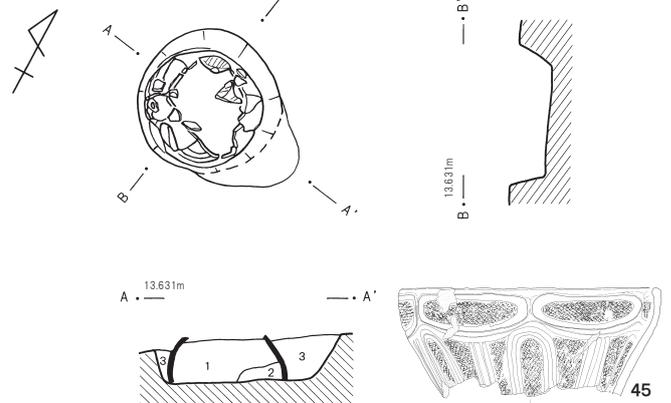
掘方



炉

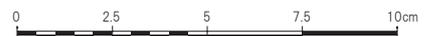
- 1. 暗褐色土 締りやや弱、焼土・炭化物少し、ローム粒多く含む
- 2. 暗褐色土 締りやや弱、ローム粒・焼土少し含む
- 3. 暗褐色土 締りやや強、ローム粒・焼土・炭化物多く含む
- 4. 暗褐色土 締りやや弱、ローム粒多く、焼土少し、黒色土少しシミ状に含む
- 5. 暗褐色土 締りやや強、ローム粒・焼土・炭化物少し含む
- 6. 暗褐色土 締りやや強、ローム粒少し含む

埋甕



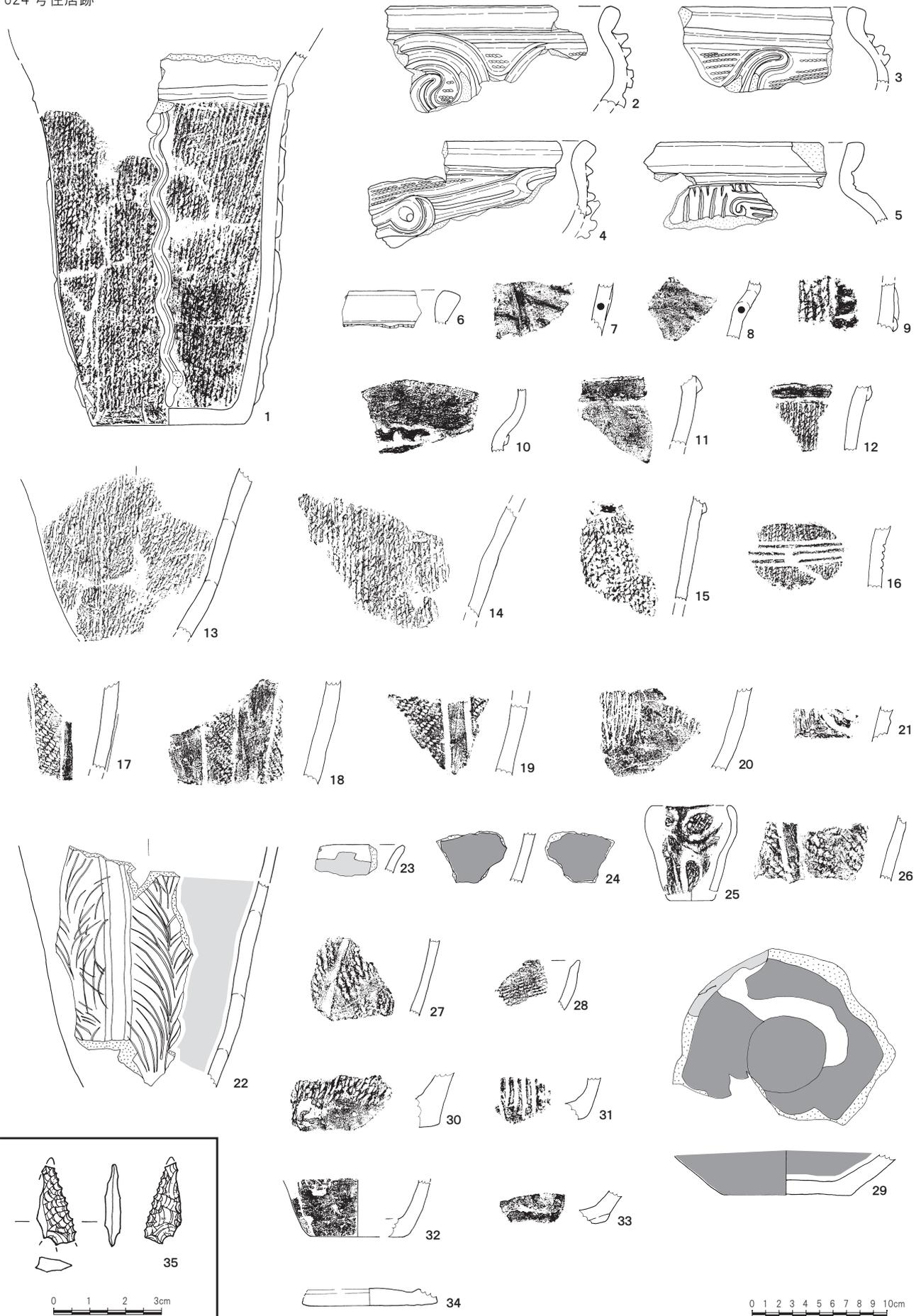
埋甕

- 1. 黒褐色土 締りやや強、1mm 以下のローム粒多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、ローム粒少し、ロームブロック多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、ローム粒少し含む



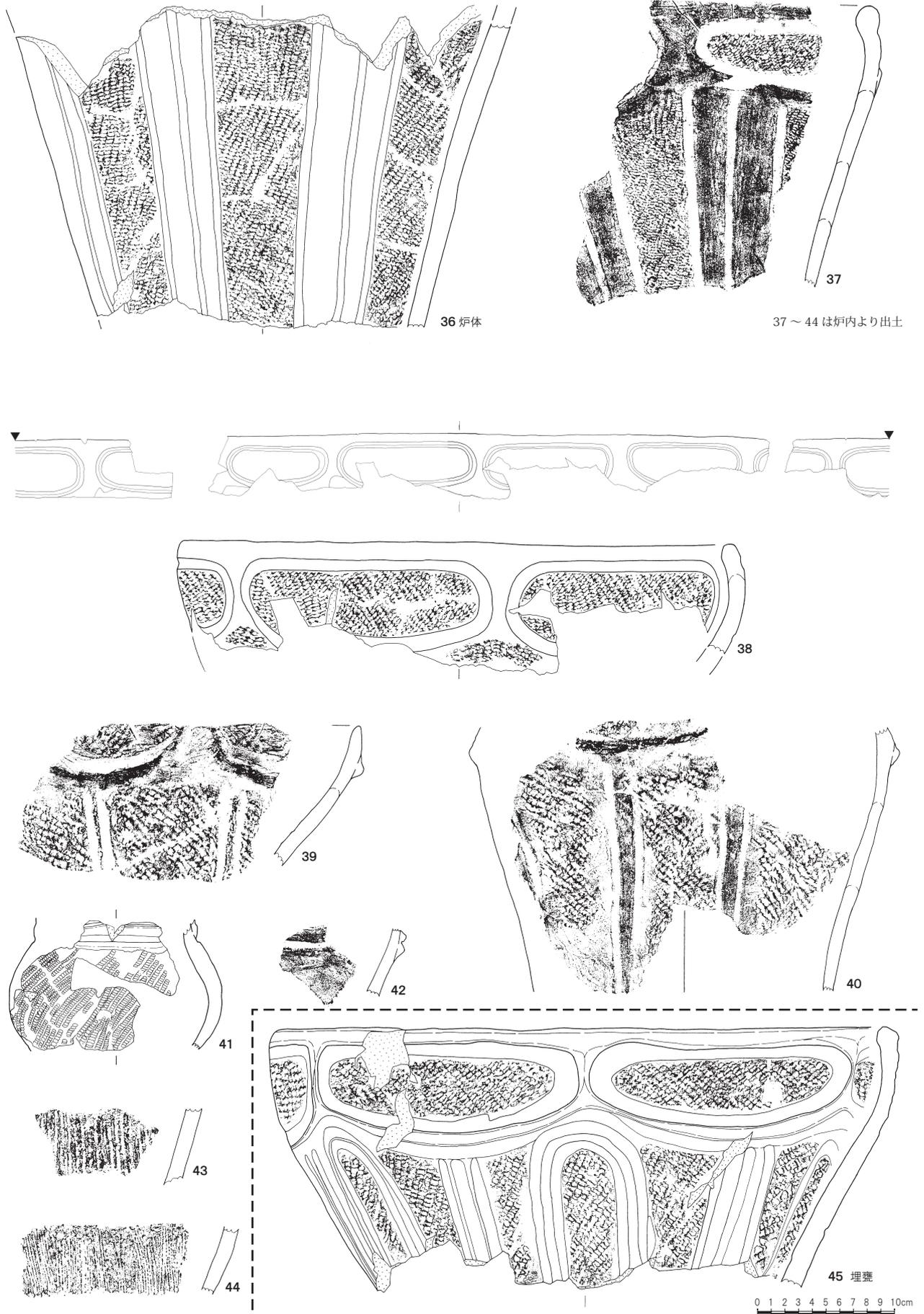
第 114 図 神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡・土坑・ピット (1/60)、炉・掘方・埋甕 (1/30)

J24 号住居跡



第 115 図 神明後遺跡第 55 地点出土遺物① (1/4・2/3)

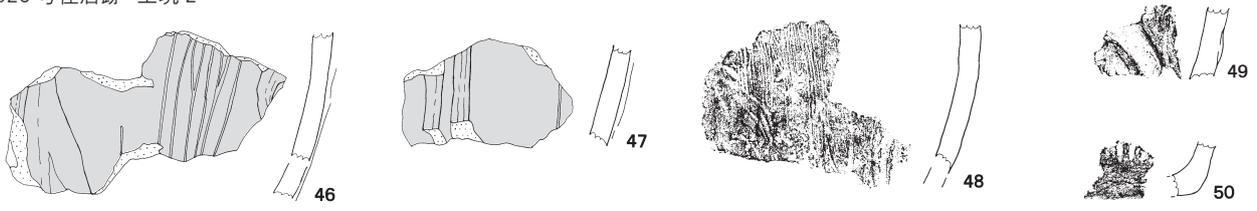
J28 号住居跡



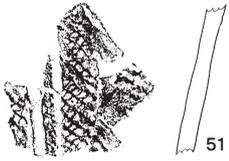
37 ~ 44 は炉内より出土

第 116 図 神明後遺跡第 55 地点出土遺物② (1/4)

J28 号住居跡 土坑 2



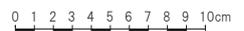
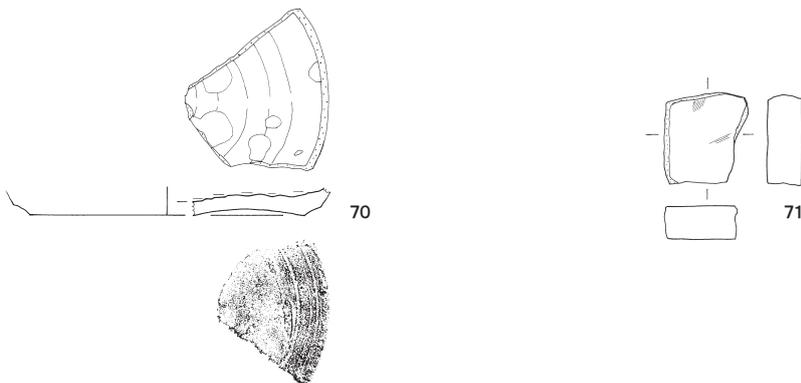
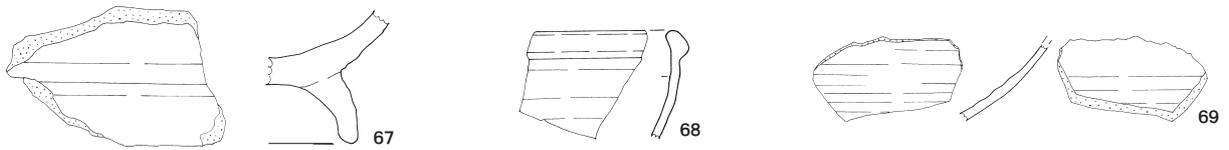
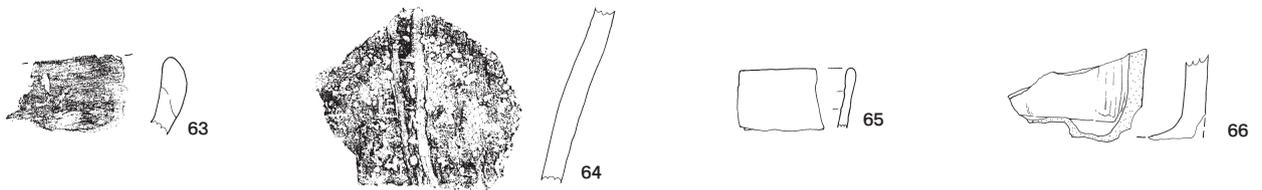
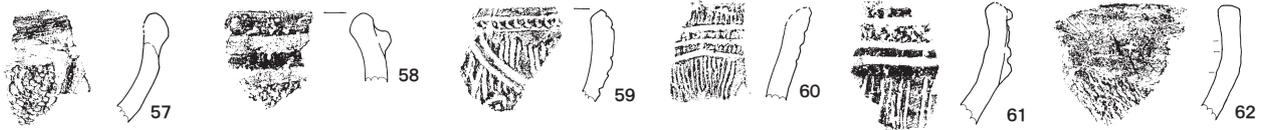
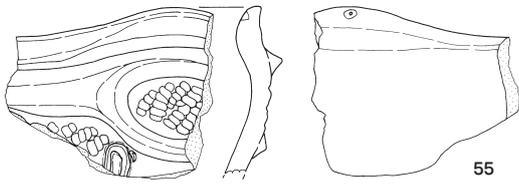
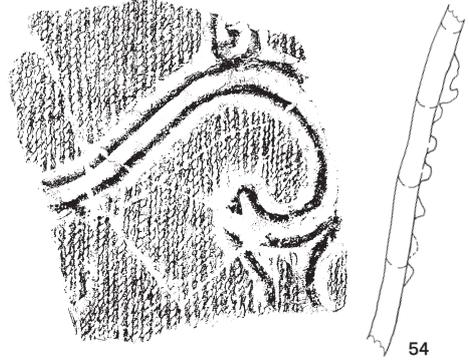
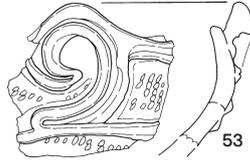
J28 号住居跡 P1



J28 号住居跡 P2



遺構外



第 117 図 神明後遺跡第 55 地点出土遺物③ (1/4)

第 65 表 神明後遺跡第 55 地点出土遺物観察表

図版番号	出土遺構	器形 / 部位	地文 / 施文 / 胎土 / 色調	時期 / 型式	
第 115 図 -1	J24 号住居跡	深鉢 / 頸部～底部	頸部から底部まで残存するキャリパー深鉢。頸部文様は施文せず、横位の篋磨きを施す。胴部との間を区画する隆帯を巡らす。胴部には 1 本隆帯を 4 箇所配置し懸垂させる。地文は L 縦位回転の擦糸である。復元最大径は 21.5 cm、現存高 27.8 cm である。胎土は砂粒を多く含み、チャートの小礫を混入する。外面暗褐色、内面暗褐色である。焼成は比較的良好	加曾利 E I 新	
第 115 図 -2		深鉢 / 口縁部	2～4 はキャリパー深鉢類の同一個体である。水平口縁で、口唇断面肥厚し、短く立ち上がる。口縁部文様帯は上下を隆帯で区画し、2 本隆帯で大柄な渦巻文を描く。地文は L の擦糸文で横位回転で施文している。復元推定口径は 36 cm。胎土は多量の砂と石英等の亜角礫を混入する。外面は暗黄褐色、内面は褐色で焼成は良好	加曾利 E I 古	
第 115 図 -3		浅鉢 / 口縁部	口唇部が直立する浅鉢である。器形が大きく「く」の字状に張り出す。胴部との区画を隆帯で画し裾を沈線でなぞる。胴部文様帯は棒状工具先端による刺突文を施し、同施文具で縦位沈線、窓枠状区画文を描く。胎土には砂・小礫・褐色シャモットを混入。内外面ともに灰黄褐色。焼成は良好	加曾利 E I 併行	
第 115 図 -4		深鉢 / 口縁部	水平口縁で、口唇断面肥厚し、短く立ち上がる。横位の沈線で区画する。胎土は白色粒子を混入するシルト質。外面灰褐色、内面黒褐色。焼成良好	加曾利 E I	
第 115 図 -5		深鉢 / 胴部	つまみあげた背の低い隆帯を貼り付ける。地文に指頭圧痕が見られる。胎土に多量の金雲母粒子を混入する。外面暗褐色、内面灰褐色。焼成は良好	阿玉台 II	
第 115 図 -6		深鉢 / 胴部	連続する押引文が施文される。胎土は多量の砂粒、金雲母粒子。小礫を混入する。外面黒褐色、内面灰褐色。焼成は良好	阿玉台 II	
第 115 図 -7		深鉢 / 胴部	地文に擦糸 L を縦位回転し施文し、隆帯を縦に張りつけ、半円状の刻みを付す。胎土は砂粒を含み、シルト質。外面灰褐色、内面黒褐色。焼成は比較的良好	勝坂	
第 115 図 -8		小型深鉢 / 頸部	頸部無文帯は、横位の篋磨きを施す。胴部との区画に「V」字状隆帯を連続的に貼付する。胎土はシルト質で、砂を若干混入する。内外面とも暗褐色。焼成良好	曾利系	
第 115 図 -9		深鉢 / 口縁部	断面三角の隆帯を貼付け直下は横位の篋磨きで無文とする。胎土は砂粒・黒雲母粒子・小礫を混入する。外面灰褐色、内面褐色。焼成良好	加曾利 E	
第 115 図 -10		深鉢 / 胴部	頸部区画隆帯直下は地文 L 擦糸を縦位回転し施文する。胎土はシルト質で外面暗褐色、内面灰褐色。焼成は比較的良好である	加曾利 E I 新	
第 115 図 -11		深鉢 / 胴部	地文に擦糸 L を縦位回転し施文する。胎土は砂粒を多量に含み、小礫を混入する。外面灰黄褐色で二次焼成で表面の剥落がみられる。内面は炭化物の付着が顕著にみられ黒褐色。焼成は不良	加曾利 E I 新	
第 115 図 -12		深鉢 / 胴部	地文に擦糸 L を縦位回転し施文する。胎土は小礫及び砂粒を多量に混入する。外面暗褐色、内面は暗褐色。焼成比較的良好	加曾利 E I 新	
第 115 図 -13		深鉢 / 胴部	頸部と胴部を区画する隆帯下に地文擦糸 L を縦位回転し施文。胎土は白色微粒子が目立つ。外面暗褐色、内面は暗褐色～黒褐色である。焼成比較的良好だが二次焼成による風化がみられ、器表面の剥落がはなはだしい	加曾利 E I 新	
第 115 図 -14		深鉢 / 胴部	地文に擦糸 L を縦位回転し、半裁竹管状工具による半隆帯で分断区画する。胎土に白色粒子を多く混入。外面暗褐色、内面灰褐色。焼成良好	加曾利 E I 新	
第 115 図 -15		深鉢 / 胴部	半裁竹管状工具による半隆帯両脇に沈線を巡らす。地文は単節 RL 縄文が施されている。胎土はシルト質で、若干の砂を混入する。外面暗褐色、内面に黒斑がみられ、灰褐色をなす。胎土良好	加曾利 E I	
第 115 図 -16		深鉢 / 胴部	胴部に 2 本 1 組の磨り消し沈線を垂下させる。地文は単節 LR の縄文を縦方向に施文している。胎土はシルト質で、外面暗褐色、内面灰褐色。焼成良好	加曾利 E II	
第 115 図 -17		深鉢 / 胴部	2 本 1 組の磨り消し沈線を垂下させる。地文は単節 RL の縄文を縦位に施文する。胎土はシルト質で砂粒・シャモットを混入する。内外面灰褐色。焼成良好	加曾利 E II	
第 115 図 -18		深鉢 / 胴部	地文に擦糸 L を縦位回転で施文。胎土に黒雲母粒子、砂粒を多く混入する。外面暗灰褐色、内面灰黄褐色。焼成は比較的良好	加曾利 E I	
第 115 図 -19		深鉢 / 胴部	沈線による弧状と細い櫛引状工具で縦に施文する。胎土はシルト質で赤褐色シャモットの混入が目立つ。内外面とも黒褐色。焼成はとても良好	連弧文系か	
第 115 図 -20		深鉢 / 胴部	キャリパー深鉢の器形。地文には単沈線で長楕円状の弧状を描き、図上右下隅に集合させる。両側に開く草葉状文を想定させる。地文を磨消、平行沈線文を懸垂させる。内面は横位の篋磨きを入念に施す。胎土はシルト質で、シャモットを若干混入する。外面暗赤褐色～灰褐色、内面灰褐色で黒斑がみられる。焼成は抜群に良好	加曾利 E II 併行の曾利系	
第 115 図 -21		深鉢 / 口縁部	無文の口縁部。胎土に赤褐色シャモット混入。外面は暗赤褐色、内面黒褐色。焼成良好		
第 115 図 -22		深鉢 / 胴部	内外面とも横位の篋磨きで入念にみがき状に調整研磨する。胎土はシルト質で黒褐色でツヤを保っている。焼成は良好		
第 115 図 -23		ミニチュア深鉢	深鉢形のミニチュア土器である。推定口径 6 cm。口縁には沈線で渦巻文を描き、胴部には沈線で逆 U 字文を垂下させている。地文は無節 L を施文。胎土はシルト質で赤褐色シャモットを混入。内外面とも暗褐色。焼成は良好である	加曾利 E III	
第 115 図 -24		深鉢 / 胴部	地文に無節 L 縄文を縦位回転し施文し沈線で磨消する。胎土はシルト質で、外面暗褐色、内面茶褐色。焼成良好。	加曾利 E III	
第 115 図 -25		深鉢 / 胴部	地文に無節 L の縄文を縦方向に施文している。沈線で U 字状に磨消懸垂する。胎土はシルト質で、シャモットの混入がある。外面灰黄褐色、内面灰褐色で黒斑がある。焼成は良好である	加曾利 E III	
第 115 図 -26		深鉢 / 口縁部	口唇部内面をそぎ落とし断面三角を呈する。地文には細い LR 縄文を横位回転し施文する。胎土はシルト質で砂粒を多量に混入する。内外面ともに灰褐色。焼成は良好である	後期	
第 115 図 -27		浅鉢 / 底部	底径 9.4 cm。無文帯で、横位の篋磨きが施される。胎土は黒雲母粒子、砂粒、小礫を多量に混入する。内面全面に赤色塗彩が施され、断面にも観察されるところから底部を二次利用として使用していた可能性が高い。外面黒褐色、内面には黒色付着物が観察される。焼成は比較的良好		
第 115 図 -28		深鉢 / 底部	22 mm の厚さで地文に擦糸 L を施す。胎土は小礫を混入するシルト質。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色。焼成は良好	加曾利	
第 115 図 -29		深鉢 / 底部	集合沈線を縦に施す。胎土に砂を若干混入する。外面褐色、内面黒褐色で炭化物の付着が認められる。焼成比較的良好	加曾利	
第 115 図 -30		深鉢 / 底部	縦方向の沈線の末端が観察できる。胎土はシルト質で、白色粒子を多量に混入する。外面褐色、内面灰褐色で黒斑が付着する。焼成良好	加曾利	
第 115 図 -31		浅鉢の底部か?	胎土はシルト質で、シャモット、砂粒の混入がある。外面赤褐色、内面灰褐色。焼成良好		
第 115 図 -32		深鉢 / 底部	底径 10.0 cm。胎土はシルト質で、底面灰褐色、内面灰黄褐色。焼成良好		
第 115 図 -33		石鏃	両脚折損する。挟入がわずかに残る。石材は青灰色チャート。長さ 2.3 mm、幅 0.9 mm、厚さ 4.15 mm、重さ 0.94 g		
第 116 図 -36		J28 号住居跡炉体	深鉢 / 胴部	炉内から出土したキャリパー系深鉢形土器の胴部である。最大径 37.3 cm。3 本 1 組の磨消沈線文が 10 単位施文される。地文は単節 LR の縄文を横方向に施文している。現存する器高は 23 cm である。胎土はやや砂質でシャモットを多く含む。外面黄褐色、内面灰褐色～暗茶褐色。焼成は良いが、内外面とも部分的には二次焼成による風化がみられ、器表面がはげ黒斑が残る	加曾利 E II

図版番号	出土遺構	器形 / 部位	地文 / 施文 / 胎土 / 色調	時期 / 型式
第 116 図 -37	J28 号 住居跡炉内	深鉢 / 口縁部～ 胴部	36 の炉体土器内から出土したキャリパー系深鉢形土器である。口縁はやや内湾し、口縁部文様は沈線で楕円形区画文を施文し、その直下から 3 本 1 組の磨消沈線文が施文される。楕円区画内文は単節 RL 縄文を右から横位に、胴部は左から横位に単節 LR 縄文を横方向に施文している。胎土はシルト質で赤色シャモット、小礫を含む。外面黄褐色、内面灰褐色。焼成は良好	加曾利 E II
第 116 図 -38		深鉢 / 口縁部	口径 41 cm。現存高 9.8 cm。口縁部は平縁で 1 本の沈線で 7 単位の楕円区画文を配置する。地文は単節 RL の縄文を楕円区画内は横方向に、頸部は縦方向に施文している。胎土はシルト質である。外面灰褐色～暗褐色、内面褐色で黒斑がみられる。部分的に二次焼成による風化がみられる。焼成は比較的良好	加曾利 E II
第 116 図 -39		深鉢 / 口縁部	口縁部はゆるやかに内湾するキャリパー系深鉢の器形。隆帯により口唇部から楕円形区画文を描き、2 本 1 組の磨消沈線文を施文する。単節 RL の縄文を横から斜め方向に施文し地文とする。楕円区画内は縦方向に施文する。胎土は砂粒を混入するシルト質。外面暗黒褐色、内面暗褐色。焼成は良好	加曾利 E II
第 116 図 -40		深鉢 / 口縁部～ 胴部	38 と同様の施文構成。胴部の地文は単節 LR の縄文を縦方向に施文する。胎土はシルト質で若干の砂粒を混入する。外面黒褐色、内面暗褐色。焼成良好である	加曾利 E II
第 116 図 -41		壺形土器胴部	推定口径 11.5 cm。胴部最大径 15.5 cm。口縁部と胴部の区画に浅い沈線文を 2 本巡らせる。地文は LR の縄文を横方向に施文する。外面全面に赤彩、黒斑が部分的にみられる。暗赤褐色。内面灰黄褐色。胎土に小礫混入。焼成良好	
第 116 図 -42		深鉢 / 頸部	つまみあげた背の低い隆帯を貼り付け沈線を沿わせる。胎土はシルト質で黒雲母粒子を混入する。内外面とも褐色。焼成は良好	
第 116 図 -43		深鉢 / 胴部	地文として条線を縦方向に施文する。胎土に砂粒を多量に混入し、外面はザラつく。外面褐色。内面褐色。焼成は良い	
第 116 図 -44		深鉢 / 胴部	4 本 1 組の細い櫛歯状工具で条線を縦に施文する。胎土はシルト質でシャモットを混入する。外面は灰黄褐色、内面褐色。焼成良好	
第 116 図 -45		J28 号 住居跡埋塞	深鉢 / 口縁部～ 胴部	口縁部を逆位に伏せた状態で出土した深鉢土器。最大径は 44 cm。現存高 20.5 cm である。口縁から胴部上半が埋塞に使用され、胴下半から底部は欠損するものである。口縁部は平縁で、ゆるやかに内湾し、胴部の括れはないバケツ状の器形をなすものと考えられる。口縁部には沈線によって楕円形区画文を 6 単位施文している。楕円区画文との間から 2 本 1 組の沈線で逆 U 字状を描き、楕円区画中央部直下から 3 本 1 組、2 本 1 組の磨消沈線文を垂下している。地文は単節 LR の縄文を胴部は斜め方向に、口縁部区画内には RL の縄文を横方向に施文している。胎土にシルト質で、赤褐色シャモットや小礫を混入する。内外面とも灰黄褐色で黒斑がみられ、内面はハジゲが多くみられる。焼成は良好である
第 117 図 -46	J28 住 土坑 2	深鉢 / 胴部	微隆起文を貼り付け、地文に 3 本一組の櫛歯状工具を縦位に施す。外面に黒色付着物、内面には黒斑の付着が著しい / 胎土はシルト質で、白色粒子・赤褐色シャモットを混入する / 外面褐色～灰褐色、内面灰黄褐色で外面に黒色付着物がみられる	加曾利 E II 新
第 117 図 -47		深鉢 / 胴部	46 と同一個体。断面背の低い微隆帯を 2 本貼る。ヘラで縦位の入念な研磨を施す	加曾利 E II 新
第 117 図 -48		深鉢 / 胴部	幅 5 mm ほどの櫛歯状工具で 4 本の細い条線を繰り返し縦位に施す / 胎土はシルト質で白色粒子を混入する / 外面褐色、内面は黒斑に覆われる。地は外面と同じ。焼成良好	加曾利 E II
第 117 図 -49		深鉢 / 胴部	幅広の沈線で弧状の懸垂文を描く / 胎土はシルト質で赤褐色シャモット混入 / 外面暗灰褐色、内面灰褐色。焼成は良好である	加曾利 E II
第 117 図 -50		深鉢 / 底部	沈線による懸垂文を描く。胎土はやや砂質で、外面暗黄褐色、内面灰褐色	加曾利 E
第 117 図 -51	J28 住 ピット 1	深鉢 / 胴部	地文に LR 単節縄文を縦位回転させ平行沈線で懸垂文を描く / 胎土はシルト質で、シャモットを混入する / 外面暗褐色、内面暗褐色	加曾利 E II
第 117 図 -52	J28 住 ピット 2	深鉢 / 胴部	地文は単節 LR の縄文を横位回転して施し、磨り消す 2 本の沈線文を施文する。胎土はシルト質で砂を多く混入する。外面黄褐色、内面灰褐色	加曾利 E II
第 117 図 -53	遺構外	深鉢 / 口縁部	キャリパー系深鉢で 2 本隆帯で大柄の渦巻文を描く。地文は L の捺糸を縦回転施文する。頸部は無文帯となる。胎土は黒雲母、赤褐色シャモット、小粒な砂を混入する。外面明灰褐色、内面暗褐色。	加曾利 E I 古
第 117 図 -54		深鉢 / 胴部	2 本の帯で大柄の渦巻文を描き、モチーフ末端に小渦巻文を配する。器面全体に L 縦位回転の捺糸文を施文する / 胎土は少量の砂を含み、黒雲母粒子が混じる。外面暗褐色～褐色、内面褐色である。焼成は比較的良好	曾利式
第 117 図 -55		深鉢 / 口縁部	4 単位の波状口縁部をもつキャリパー系深鉢で、渦巻文部が、口縁の波頂部下にくる。地文は単節 LR 縄文を横位回転施文する。胎土はシルト質で小礫を含む。外面は褐色、内面暗灰黄褐色。焼成は良好	加曾利 E II 新
第 117 図 -56		深鉢 / 口縁部	沈線区画内に単節 LR 縄文を縦方向に施文する。胎土はシルト質で、砂を少量混入する。内外面とも灰黄褐色である。焼成は比較的良好	加曾利 E II 新
第 117 図 -57		深鉢 / 口縁部	沈線区画内に単節 LR 縄文を斜位に施文する。内面は幅 5 mm ほどのヘラ磨き。胎土はシルト質で白色微粒子を混入する。内外面とも灰黄褐色。焼成は良好である	加曾利 E II 新
第 117 図 -58		深鉢 / 口縁部	隆帯下に RL 縄文を施文する。胎土はシルト質で砂粒を混入する。内外面とも灰褐色。焼成は良好	加曾利 E II 新
第 117 図 -59		深鉢 / 口縁部	平行沈線文の巡る連弧文を、地文 4 本の条線上に施す。口唇部は半裁竹管工具を連続刺突する。胎土はシルト質で、褐色シャモット、白色粒子を混入する。外面は黒褐色、内面暗褐色。焼成良好	連弧文系
第 117 図 -60		深鉢 / 口縁部	地文に細捺糸 R を縦位回転し、平行沈線文を施す。胎土は砂粒を混入する。外面は暗灰褐色、内面灰褐色。焼成比較的良好	連弧文系
第 117 図 -61		深鉢 / 口縁部	隆帯直下から地文に条線を施す。胎土は砂を多量に混入する。外面暗褐色～灰褐色、内面は灰褐色。焼成不良	加曾利 E II
第 117 図 -62		深鉢 / 口縁部	波状をなす口縁部で、無文部直下は材質が硬く弱い RL 縄文が縦回転に施文されている。胎土に赤褐色シャモットを多量に混入する。外面に黒斑が付着し、灰黄褐色。内面は黒褐色。焼成は良好である	加曾利 E II 新
第 117 図 -63		深鉢 / 口縁部	内外面とも横位の磨磨きを施し文様はない。胎土はシャモット混入し、シルト質。外面黒褐色、内面は灰褐色。焼成良好	加曾利 E
第 117 図 -64		深鉢 / 胴部	2 本の沈線を垂下させている。地文は無文だが入念な縦位の磨磨きを施す。胎土は砂粒多く混入する。外面は褐色でハジゲが目立つ。内面は灰黄褐色。焼成良好	加曾利 E
第 117 図 -65		土師質 / 口縁部	横位の研磨を施す。胎土は黒雲母片を混入する。内外面とも黒褐色	
第 117 図 -66		瓦質土器 / 風口 底部	内外面ナデ調整し、外面黒色光沢有り	
第 117 図 -67		瓦質土器 / 養蚕 火鉢底部	轆轤成形 / 外面叩き目 胎土は灰褐色。内外面とも黒褐色。山王焼 (産地: 東松山市)	20 世紀中頃?
第 117 図 -68		磁器 / 捏鉢口縁	轆轤成形 / 灰釉 / 内面施釉 / 胎土灰色	
第 117 図 -69		磁器 /	轆轤成形 / 灰釉 / 外面全面にスス付着 / 胎土灰白色	
第 117 図 -70		陶器 / 皿底部	底径 16.5 cm。胎土は灰黄褐色	
第 117 図 -71		土器 / 砥石転用	縄文土器片 (加曾利 E II 期の土器) を用いた簡易的な砥石。面のほとんどを研ぎ面とする。内面を主研ぎ面とする。B 面に縄文施文痕が残る。胎土は砂粒、赤色シャモットを混入する。外面灰黄褐色、内面暗褐色。焼成は良好	



神明後遺跡第 55 地点完掘



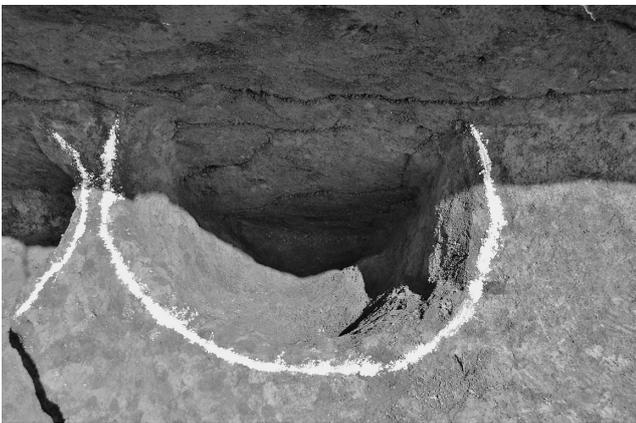
神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡



神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡土坑 1



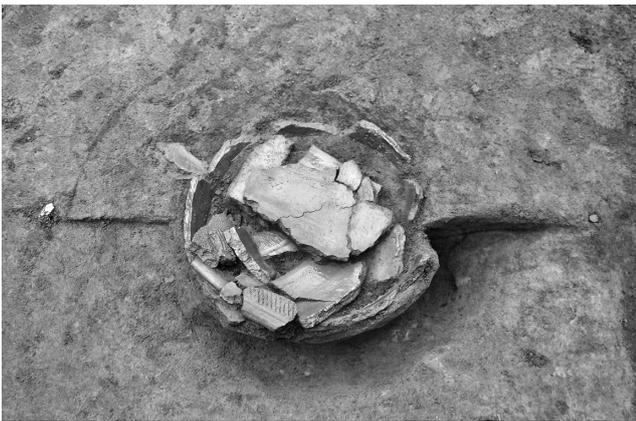
神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡ピット 2・土坑 1



神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡ピット 4



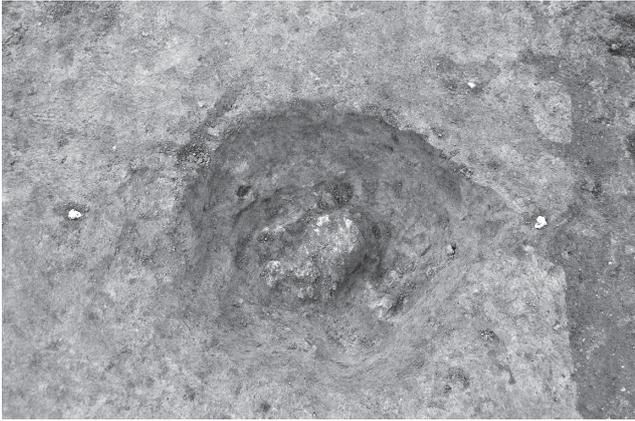
神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡ピット 5



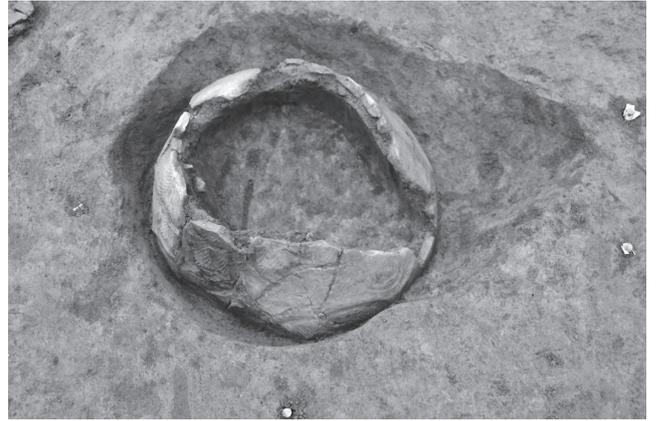
神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡炉遺物出土状況



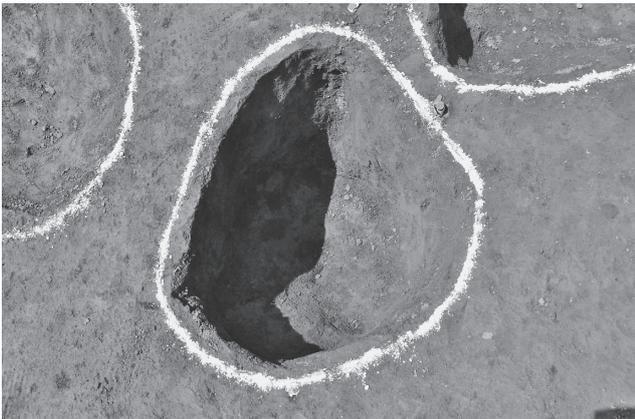
神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡炉



神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡炉完掘



神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡埋甕



神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡ピット 1



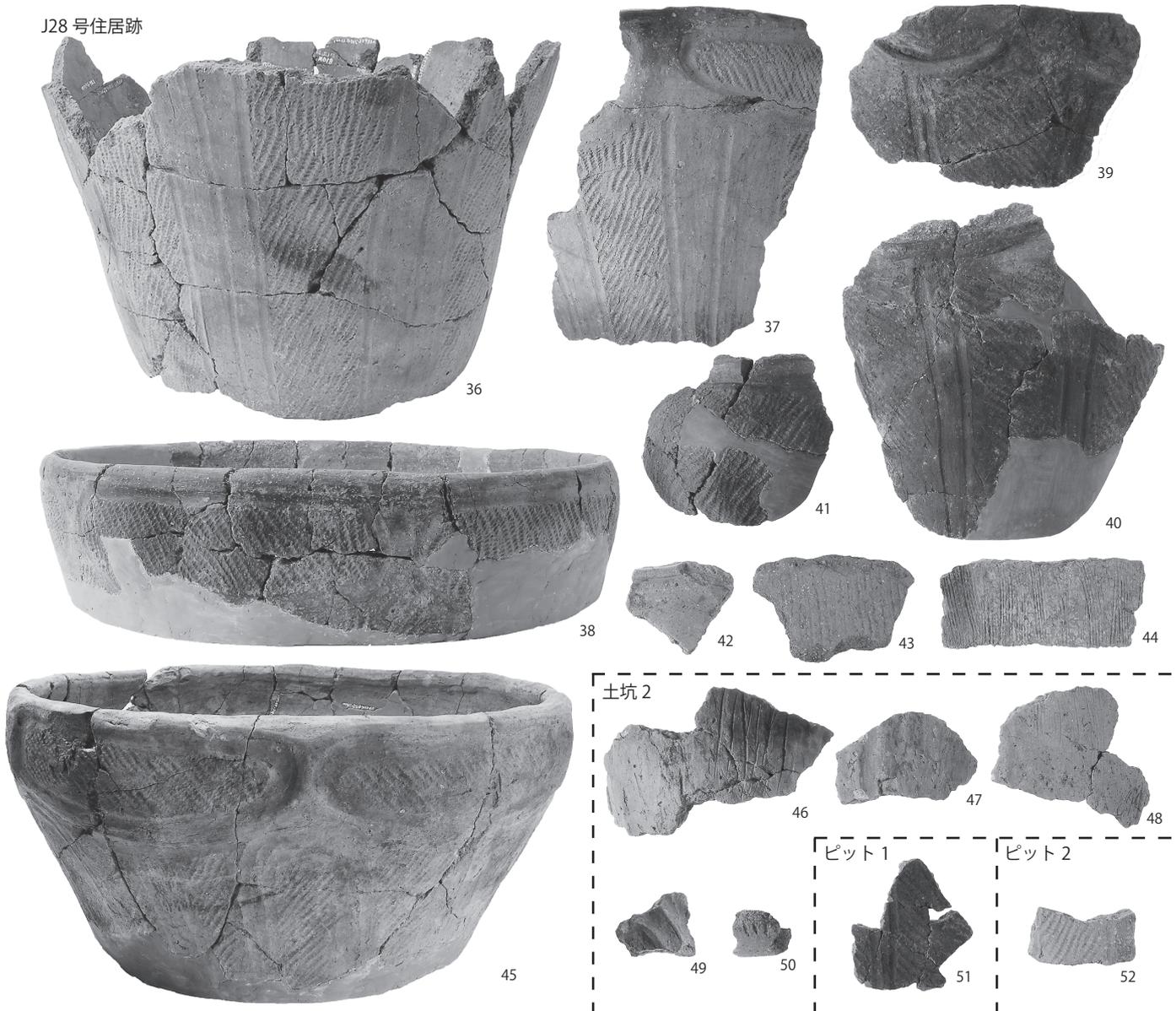
神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡ピット 2

J24 号住居跡



神明後遺跡第 55 地点出土遺物①

J28 号住居跡



遺構外

